

〔所 感〕

長崎市議会議員 中村 照夫

ブラジル訪問団事業報告

今回、「サントス市姉妹都市提携40周年記念事業に伴う、ブラジル訪問団」の一員として、ブラジルを訪問しました。

今回の目的は、ブラジルのサントス市と姉妹都市提携40周年を迎えることから、長崎市からサントス市へ公式訪問団を派遣し、記念行事に出席するとともに、在ブラジル長崎県人会創立50周年記念式典に出席する。また、長崎市の少年サッカー団と一緒に派遣し、サントスFCジュニアユースとの交流を通じて、青少年の国際性を育み「個性輝く世界都市 長崎」を担う若者の育成を図るとともに、今後の姉妹都市交流を促進させることにありました。

日程および事業内容につきましては、別紙のとおりです。

両市の姉妹都市提携40周年記念式典は、サントス市役所で行われ、田上市長、市議団、サッカー選抜中学生15名が参加しました。

式典では、路面電車の贈呈セレモニーや、原爆展の開催セレモニーが行われ、長崎市の水産業の現状について報告されました。

この後、参加者はサントスの路面電車に乗車し、市内の町並みを見学し、コーヒー取引所などを見学しました。

今回の訪問では、ブラジルで活躍しておられる長崎県人会の皆さんから手厚い歓迎を受けるとともに、今後の交流について多くの提言がありました。ブラジルでは、ほかの都市と違い日系人社会がしっかりしており、受け皿としては文化的、経済的交流が可能であると感じました。また、県人会の皆様からは、「長崎県が実施している海外技術研修員受入事業は、大変素晴らしい事業と思うが、近年、県の支援枠が縮小されたということで広げてほしい。」との要望がありましたが、長崎市としてもこのような事業を取り組んでいくべきと強く感じました。

経済交流においては、日本フェスティバルへのながさき産品の出展、小学校の交流事業、ながさきががんばらんば国体への参加受け入れ、などの要望を受けました。

また、「日本祭り」は、20万人の来場者があるイベントで、各県人会が、自慢の郷土料理を販売しており、ながさきの食文化をブラジルに紹介するチャンスでもあり、特産品の輸送等が可能となるよう業界や県人会と調整を図っていかなければなりません。

このほか、ブラジルとの交流については、サントス市の中学校やサンパウロ州立「長崎小学校」との平和交流を進め、若者の交流促進が今後の大きな課題であると強く感じました。

以上、報告と所感を申し上げます。